

医学部 保健学科
医学系研究科 保健学専攻



2023

FOCUSED ON THE FUTURE



山口大学

受験生のみなさんへ 1

医学部保健学科 2

 教育理念・目的及び教育目標 2

 教育課程 2

 教育の概要 3

 ・看護学専攻

 ・検査技術科学専攻

看護・医療技術・研究の国際化を目指して 4

 ・英語を母国語とする教員 (Native English Speakers)による専門教育と国際学術集会

 ・国際交流校との合同研修や共同研究

 ・国際誌「Nursing and Health Sciences」の編集・刊行

 ・国際共同研究の実施・国際会議参加・国際シンポジウムの開催

 ・Sigma (Sigma Theta Tau International), Tau Nu Chapter の活動

在学生からのメッセージ 6

 ・看護学専攻

 ・検査技術科学専攻

キャンパスライフ 8

 令和5年3月卒業生の進路 9

 学位・受験資格等 9

 入試情報 9

医学系研究科保健学専攻 10

 受験生へのメッセージ 10

 教育の理念と目標 11

 教育の概要 11

 ・看護学領域

 ・生体情報検査学領域

特別研究分野と主研究テーマ 12

 ・看護学領域

 ・生体情報検査学領域

在学生からのメッセージ 12

 ・看護学領域

在学生からのメッセージ 13

 ・生体情報検査学領域

入試情報 13

 ・受験方法

 ・入学者選抜方法

 ・学生募集要項の請求方法

 ・請求・お問い合わせ先

受験生のみなさんへ

山口大学医学部保健学科には、看護学専攻と検査技術科学専攻の2つの専攻があります。本学科は、平成12年10月に設置され、平成13年4月に第1期生が入学しました。平成16年度末に最初の卒業生を送り出し、引き続き、平成17年度には、保健学科を基礎とする大学院医学系研究科保健学専攻が設置され、平成21年度末に博士後期課程の最初の修了者を輩出し、本専攻が制度的に完成しました。すでに保健学科設置から23年、大学院の保健学専攻設置から18年が経過し、多くの卒業生や修了生が社会に羽ばたいています。

本学科に入学した1年次は、山口市の吉田キャンパスで、他学部の学生と一緒に、一般教養および語学を中心とした共通教育の授業を受けます。さらにサークル活動やアルバイト等を通じて、他学部や医学部医学科の学生との交流を深めることも可能です。この時から、山口大学の理念である「発見し・はぐくみ・かたちにする 知の広場」をモットーに、人間力とバイタリティーあふれる人材の育成を目指した教育を行っています。2年次からは宇部市の小串キャンパスで、専門教育の講義・実習が本格的に始まり、忙しくも充実した毎日を送ることになります。

本学科では、看護学専攻は卒業時に看護師および保健師、検査技術科学専攻は臨床検査技師の国家試験受験資格が得られ、国家試験の合格率は毎年ほぼ100%の実績があります。さらに、看護学専攻では助産師、検査技術科学専攻では細胞検査士、健康食品管理士などの受験資格が得られる選択コースを設けています。また、本学科の特色として、4つの国際化プロジェクトを実践しています。1つ目は、外国人の専任教員による医療英語や基礎医療英会話、国際看護学の授業です。2つ目は、わが国唯一の看護・健康科学領域の国際誌Nursing and Health Sciencesの刊行です。3つ目は、看護・健康科学領域のリーダーを育成する目的で、チェンマイ大学、マヒドン大学、香港大学及び本学の4大学で組織したAP AHL (Asia-Pacific Alliance of Health

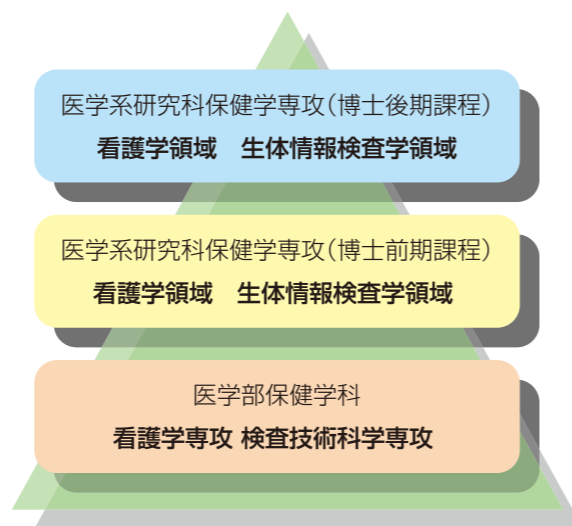


保健学科長 野垣 宏

Leaders)です。4つ目は、本学科には看護学領域で権威のある国際名誉学会Sigma Theta Tau International (STTI)の日本で唯一の支部が平成17年11月に設置されています。

医療の専門職を目指して入学する皆さんを迎えるにあたって、われわれ教職員の最大の使命は、看護学および検査技術科学に関する重要かつ高度な知識・技術を教授し、優秀な医療技術者や高度専門職業人を育成することですが、それを実現するためにわれわれは、山口大学医学部保健学科に入学した方々が、山口市と宇部市で充実した学生生活を送り4年間で無事に卒業、確実に国家試験に合格したうえで、第1希望の病院や企業等に就職するという一連の過程をサポートいたします。そして、この使命をこれまで着実に果たしてまいりました。もちろん、大学院に進学した方には引き続き研究の指導を行い、修士や博士取得を目指します。

みなさんにはぜひ山口大学医学部保健学科を受験していただき、そしてわれわれの元で学び、優秀な医療人となって社会に貢献することを期待します。



医学部保健学科と医学系研究科保健学専攻の構成



■教育理念・目的及び教育目標

教育理念

保健学科では、保健・医療の分野において、真理を探究し、人類の幸福と発展に資する知識・技術を「発見し」「はぐくみ」「かたちにする」ことを教育理念とし、保健・医療の専門的知識と技術の教授とともに、豊かな人間性を涵養する教育を行い、今後の社会の変化に対応し得る医療技術者を養成することを目的として、以下のような教育目標を掲げています。

教育目標

- (1) 保健・医療の変化に対応できる人材の育成
- (2) 保健・医療チームの一員として活躍できる人材の育成
- (3) 保健・医療の学問体系の確立に貢献できる人材の育成
- (4) 保健・医療の国際化に対応できる人材の育成
- (5) 地域保健及び地域医療の向上に貢献できる人材の育成

教育課程



1年次

共通教育科目

2年次

専門基礎科目

専攻別専門科目

臨床実習



3年次



4年次

卒業研究発表会

教養コア系列
英語系列

一般教養系列
専門基礎系列

形態機能学I・II
生化学
免疫学
病理学
微生物学
臨床栄養学
臨床薬理学
保健学

環境衛生学
医療放射線学
医療情報システム論
医学のための統計学
医療英語
基礎医療英会話
他

■看護学専攻

看護学概論I・II
看護過程論
基礎看護方法論I・II
看護倫理学
国際看護学
成人疾病学
成人看護学I・II
クリティカルケア看護学
臨床アセスメント学
緩和ケア論
精神保健学
精神看護学
小児保健医療論
小児看護学

母性看護学
老年疾病学
老年看護学
在宅看護学
在宅看護実践論
公衆衛生看護学概論
公衆衛生看護学活動論
疫学
保健統計学
保健福祉行政論
看護学研究概論
看護学卒業研究I・II
災害看護学
他

■検査技術科学専攻

基礎検査学I・II
医療安全管理学
検査技師のための看護学
検査機器学
医療工学
情報科学
分子生物学
組織学
発生遺伝学
病理形態学
病理検査学
微生物検査学I・II
医動物学
病態生化学I・II
輸血・移植検査学

免疫検査学
循環機能検査学
呼吸機能検査学
神経・感覚機能検査学
画像検査学
血液学
血液検査学
臨床医学
臨床検査診断学
臨床病理学
検査管理学
検査精度管理学
臨床検査学総合研究
他

■教育の概要

看護学専攻



健康で安心して暮らせる社会の実現はすべての人々の願いです。あらゆる健康レベルの人々のケアに携わる看護職には、保健・医療・福祉における幅広い領域での活躍が社会から期待されています。その期待に応えるために、看護学専攻では看護職者が科学的な根拠に基づいた適切な判断と問題解決ができる能力、柔軟な思考力、国際的視野で社会情勢の変化や医療の発展に対応できる能力などを育成します。ライフサイクルや生活場所に対応し

た、各看護学や在宅看護学、公衆衛生看護学に加え、救急看護学、高度先進医療看護学、遺伝看護学、国際看護学など次代に先駆けたカリキュラムを準備し、学生全員が看護師と保健師の国家試験を受験することができます。高度な専門知識・技術の習得と共に豊かな感受性、創造性、向上心を養い、看護実践・教育・研究の場で活躍できる資質の高い看護職を育てることを目標とし、一流の看護学研究者がレベルの高い教育環境を整えています。



検査技術科学専攻



現代医学は病気を正確に診断するために血液検査だけでなく、超音波やCT検査から細胞診まで、高度な臨床検査が用いられます。正しく診断されて初めて有効な治療が行えます。このため、精度が高くかつ特異性の高い検査法の開発と普及が要求されます。本検査技術科学専攻では、専門職に必要な知識と技術を習得し、エビデンスに基づく適切な判断と解決能力を身につけ、国際的な発展を遂げている医療分野に対応できる英語能力を養うための

カリキュラムを準備しています。卒業後の進路は病院の検査室が主ですが、製薬会社や生命科学関連の研究所、試薬や機器メーカー、検査センターなど多方面に開かれています。また、本専攻の特徴は、細胞検査士や健康食品管理士の教育指定校として受験資格が得られることです。細胞検査士は「がんの早期発見」に大きな貢献をしています。健康食品管理士は、食品の選択や安全性を判断し食品管理を通して健康に寄与する新しい資格です。



■看護・医療技術・研究の国際化を目指して

現在、我が国の大学が国際社会から問われている最も重要な課題の一つは、世界水準の教育・研究活動を行うという点です。この点に関して、本学は、アジア太平洋地域の大学間提携における学部・院生の交流を通じた多文化の理解や、リーダーシップの育成に努めています。また教員においても、国際共同研究や学術集会、さらには本学が事務局となって看護・健康科学の国際誌を発刊するなど、保健学の教育機関では全国的にも先駆的な取り組みを行っています。これらさまざまなプログラムによって、世界水準の教育・研究機関を目指して努力を重ねており、医療の国際化に対応できる医療人の育成を目指しています。

英語を母国語とする教員(Native English Speakers)による専門教育と国際学術集会

本学は、保健学科設置以来、看護・医療技術の教育・研究を国際的な水準で展開することの必要性を強調してきました。英語を母国語とする本学の教員による「医療英語」、「基礎医療英会話」、「国際看護学」などの科目の設置、さらには海外の先端医療事情の紹介や英語による授業など、学生の皆さんに医療の知識を英語で表現することにより、論理的かつ正確に理解できることのすばらしさを十分知ってもらうための機会を多数用意してきました。

その他、諸外国の大学や研究機関を訪問し、大学間における共同研究に参加した本学教員との交流、また海外から訪れる研究者による特別講義の企画など、学生の皆さんがあらゆる機会を通して英語に触れられるようにしています。したがって、英語を母国語とする教員や海外経験の豊かな教員とともに学べる環境の中で、卒業するまでに、学生の皆さんの英語力と国際感覚(多文化の理解なども)が著しく向上するものと確信しています。

国際交流校との合同研修や共同研究

本学は、看護・健康科学領域のリーダーを育成する目的で、アジア太平洋地域の大学と共にAPAHL (Asia-Pacific Alliance of Health Leaders、通称:エイパール)を組織し、緊密な連携を行っています。2005年の発足以降、毎年各校が輪番で学術・交流フォーラムを開催しており、これまで毎年本学科から学生10名と教員数名が参加して交流を行ってきました。

本学が開催校となったのは、2006年、2009年、2014年と2021年です。2021年はコロナ禍で、初のオンラインによるフォーラムとなりました。2022年は、チェンマイ大学での現地開催でした。「デジタル時代のテクノロジーを駆使した保健医療のリーダーシップ」をテーマに、チェンマイ大学、マヒドン大学そして香港大学の学生とともに、プレゼンテーションやディスカッションを通して、お互いに課題を掘り下げました。同時に、国境を越えた友情を育み、新たな自分と出会い、国際化に対応できる医療人としての萌芽を自覚するなど、貴重な経験を得ました。

一方、2012年より交流校における短期研修や共同研究が開始されるとともに、院生の海外留学、海外からの留学生(学部、大学院)受け入れも年次的に進んでいます。こうした取り組みや活動により、国際性を備えた自立した高度な専門職業人の養成、英語環境の整備が着実に進みつつあります。



2022年 APAHL(タイ チェンマイ大学)

国際誌「Nursing and Health Sciences」の編集・刊行



NHS表紙

Nursing and Health Sciencesは、わが国初の看護・健康科学領域の国際誌です。本学に編集事務局を置き、英語を母国語とする歴代の専任教員が編集長を務め、国際的な編集陣により編集・出版されています。1999年に第1巻が発刊され(年4回)、最近では国内外で高い評価を受け、国際語とし

ての英語を介した看護・健康科学領域の研究発展に寄与しています。世界のさまざまな国からの投稿があり、その数は年間約1,000論文に登ります。また、掲載された論文が学術雑誌の文献引用影響率を示すインパクトファクターは2023年4月現在で2.214となっています。2015年からはオンライン・ジャーナルとなり、掲載された論文はIndex MedicusやMEDLINEといった国際的な医療系学術雑誌データベースを通じて全世界の研究者から引用されています。皆さんも是非、インターネットでアクセスしてみてください。

<http://wileyonlinelibrary.com/journal/NHS>

国際共同研究の実施・国際会議参加・国際シンポジウムの開催

国際的にアカデミックな取り組み、いわゆる国際共同研究を積極的に進めています。国際交流校の研究者との共同研究、さらに本校に研究者を受け入れて共同研究をしています。また、海外からの研究者を招聘し、講演会や

シンポジウムを開催しています。学生の皆さんは、教員と共に国際的視点から最新の情報を得たり、ディスカッションしたりする機会があり、恵まれた環境にあるといえるでしょう。

Sigma(Sigma Theta Tau International), Tau Nu Chapterの活動

Sigmaは、1922年に米国インディアナポリスで創設された看護国際名誉学会(Honor Society of Nursing, Sigma Theta Tau International)であり、看護領域ではICN(国際看護師協会)に次いで2番目に大きな組織です。世界の100か国以上に渡って約540の支部があり、13.5万人以上の看護師が活動しています。看護の科学的基礎を高め、世界中の人々の健康を促進することを使命とし、臨床・教育・研究においてリーダーシップを発揮できる人材育成を行っています。本学は、2005年に本邦初の支部として認可され、2006年に、「Tau Nu Chapter」として設立されました。国内外の専門家を招いて、アカデ

ミックミーティング(教育講演会)を年間2~3回開催しています。入会には、ナース・リーダーとして活躍している業績が求められますが、本学学生の場合、優秀な成績を修めた学生は卒業時に入会することができ、国際的に協働する看護職としての第一歩になります。現在、約110名の会員で構成されています。2022年度の入会式・講演会では、本学のLai Claudia教授による教育講演があり、キャンパスで入会式に参加した新規会員、オンライン参加の支部会員、そして看護学生が参加しました。



Sigma Tau Nu Chapter(支部)入会式

在学生からのメッセージ

看護学専攻

私は、今年から小串キャンパスに移り、宇部での看護学生ライフが始まりました。山口大学は、1年次に山口にある吉田キャンパスで共通科目や看護の基礎となる科目を学ぶため、2年次から始まる専門科目の準備がゆっくりでき、看護を行うために必要な多角的な視点や知識を広げられると思います。さらに、私たちの学年から新カリキュラムが組まれていて、看護師と保健師の国家試験受験資格が得られるのは以前と変わらないまま、より現在の社会や医療の変化に対応した講義が受けられる部分がとても魅力的です。なかでも、入学前から学びたいと考えていた分野の1つである地域医療に特化した教料が増えたことで、他の医療職の方からの講義もあり、多職種連携が求められる現場について考えるきっかけになりました。

また、1年間過ごしてみて、山口大学に心惹かれると感じた部分は、夢を追いかけてながら、自分の可能性を広げられる環境が整っているところです。例えば、吉田キャンパスで留学生の方々の日本語の授業に参加してみたり、宇部でのサークル活動で幼稚園児の子たちと触れ合ったり、病院の苦しいイメージを和らげてみたり、他の医療系大学との交流会が予定されていたりと、とても充実した経験が積める機会が数多くありました。

このような山口大学でしかできない体験をしながらキャンパスライフを過ごし、理想の看護師像に1歩ずつ近づいてみませんか？



2年 喜志永 悠佳



3年 朝鍋 綾音

山口大学では1年次に山口市のキャンパスで共通教育、2年次から宇部市のキャンパスに移り、専門科目を学びます。また、3年次からは病院での実習が本格的に始まります。2年次以降は、専門科目の学習であるため、かなり内容も濃く、今まで自分が知らなかった看護の深さを知ることができます。内容が難しく、最初は専門的な授業になかなか慣れませんでした。看護を知れば知るほど勉強も楽しくなり、今は仲間と切磋琢磨しながら充実した毎日を過ごしています。

実習では、実際に担当患者を持ち、ケアを実施したり、コミュニケーションを交わしたりします。現場の雰囲気を感じ、看護師の動きを見たり、実際に自分が実施したりする中で看護の難しさも目の当たりにしますが、その経験が確実に今後の自分の大きな糧になります。

山口大学は、看護師、保健師の国家試験受験資格を全員が得られることが大きな魅力です。さらに数人の選抜者は助産師の受験資格も得られます。複数の選択肢があるため、自分の将来の幅も広がり、まだ進路が定まっていなくても入学してから自分の興味のあるものに巡り合えるかもしれません。

学習面における環境・サポート体制は整っており、加えて部活やサークル、イベントなど青春を満喫しながらキャンパスライフを送ることができます。山口大学は、看護学生にとってこの上ない最高の学びの場です。皆さんも私たちと一緒に夢の実現を目指しませんか？

4年生では、病棟実習、地域実習、卒業研究、就職活動を主に活動していきます。実習では、実際に患者さんを受け持たせていただき、担当看護師さんの直接の指導の下で看護過程を展開したり、実践的な看護技術を学んでいきます。学生ではありますが、1人の医療者として責任感もあります。実習中に悩むこともありますが、附属病院の看護師さんたちは優しく、先生方からの手厚いサポートもあり、実習を乗り越えることができます。また、講義では、専門的な知識を持つ先生方から教わることで学びを深めることができると考えます。

4年時は就職活動を行いながら、講義や卒業研究、実習もあり多忙な生活ではありますが、同じ専攻の学生とともに励まし合うことで自己のモチベーションの向上にもなります。先生方からの助言もあって頑張れます。

山口大学を魅力的だと考える点は2つあります。1つ目は、4年間で看護師、保健師の両方を学べ、国家試験を受験できる点です。保健師になることを夢に持つ学生はもちろんのこと、看護師志望の学生も多職種連携が不可欠な医療では幅広い視点を持つことを可能にしてくれると考えます。2つ目は、国際交流(APAHL)があることです。看護学を勉強しながら国際交流にも力を入れているのは魅力だと思います。私はこれまで2年間参加しました。海外の医療学生との交流や外国の医療に触れることで学びになることが多くありました。現在もこの交流で仲良くなった友人と繋がり連絡を取りあっています。将来にもつながる良い経験になります。

山口大学での学びは将来の可能性を大いに広げることができます。是非、本校の恵まれた環境で学び、一緒に夢を目指しませんか？



4年 藤井 翔夢

検査技術科学専攻

1年次は、山口市の吉田キャンパスで共通科目を他学部の学生と一緒に学びます。医療や検査に関する専門科目だけではなく、共通科目では経済と法や歴史学、哲学など様々なことを学びます。専門科目では組織についての講義や顕微鏡で実際に染色された細胞を見て学びます。1年次は時間に余裕があるので、趣味やアルバイトなど自分の時間を過ごすことができ、様々な経験ができます。

2年次は、宇部市の小串キャンパスに移動して専門科目を学びます。2年次では月曜日から金曜日まで、1限から5限まで講義があります。講義の内容も、より専門的なものが増えるので1年次より難しくなりますが、友人と一緒に取り組むことで学習を深めることができます。また、実習も1年次よりも増え、実際に検査を体験することで専門的なことを学んでいきます。

大学では、勉強だけでなく、部活やサークル活動に参加している学生が多いです。部活やサークル活動では、同じ学科の人だけではなく、他学科と交流することで様々な出会いがあります。

山口大学では様々な経験をすることができ、臨床検査技師を目指す良い環境が整っていると感じています。皆さんも山口大学で臨床検査技師を目指してキャンパスライフを楽しみませんか？



2年 大森 惇平



3年 高木 望波

2年次ではキャンパス移動があり、その後も専門的な講義や実習が詰まった忙しい日々を過ごします。最初はその急な忙しさに慣れなかったり、勉強についていけないのではと不安になることもありましたが周りの友達と一緒に励ましあったり、困った時には先生方も助けてくださったりと楽しく大学生活を過ごすことが出来ました。

3年次でも専門的な講義や実習を進めていきますが、2年次と違い、自分の将来について考える手がかりになるような講義や様々な先生・先輩の話を知ることができる機会が増えます。また、2年次ほど授業は詰まっていなため、自分の目標や将来のために時間を費やすことができます。もちろん日々の疲れを癒すための時間にも使えます！

また、山口大学では臨床検査技師以外にも、細胞検査士や健康食品管理士といった認定資格のほか、毒物劇物取扱責任者や第2種ME技術者などの多くの資格を取得することができます。勉強以外にも部活動やアルバイト、医学祭などのイベント、APAHLといった国際活動もあり、楽しく充実した大学生活を送ることができます。

このように、山口大学では勉強はもちろん、それ以外でも自分の頑張りが報われるところだと思います。辛い時ももちろんありましたが、周りや切磋琢磨し、成長を実感できる日々を過ごしています。受験生の皆さんも臨床検査技師を目指し、山口大学で楽しいキャンパスライフを送ってみませんか？

4年生では、卒業研究や病院実習に取り組んでいます。卒業研究は、自分の興味のある分野の研究を行うことができます。難しいこともありますが、先生方に指導していただきながら専門的な知識や技術を高めることができるとともに、研究の面白さを感じ、充実した日々を過ごしています。病院実習は、3年生までの講義や実習では学ぶことのできない現場の雰囲気やプロの臨床検査技師の技術を肌で感じ、より一層自分の成長につなげられます。

この卒業研究や病院実習と並行して、卒業試験や国家試験の勉強や就職活動、大学院入学試験などがあります。忙しい日々の中、勉強方法や自分の将来に悩んでしまうこともありますが、先生方が生徒一人ひとりに親身になって相談にのってくださるので、安心して全力投球できます。

山口大学では、細胞検査士や健康食品管理士など、在学中に様々な資格を取得することができます。細胞検査士は取得が難しく勉強もハードになりますが、病理分野において非常に重宝される価値ある資格です。先生方の熱心な指導や精神的なサポートを受け、また、仲間と励まし合いながら、合格に向け努力を続けています。勉強以外にも、部活動やアルバイト、医学祭などのイベント、APAHLなどの国際活動の機会もあり、充実した大学生活を送っています。

受験生の皆さんも、是非、この山口大学で臨床検査技師を目指し、楽しいキャンパスライフを送ってみませんか？



4年 大島 由葵

■キャンパスライフ



医学祭



国際交流



部活動



図書館

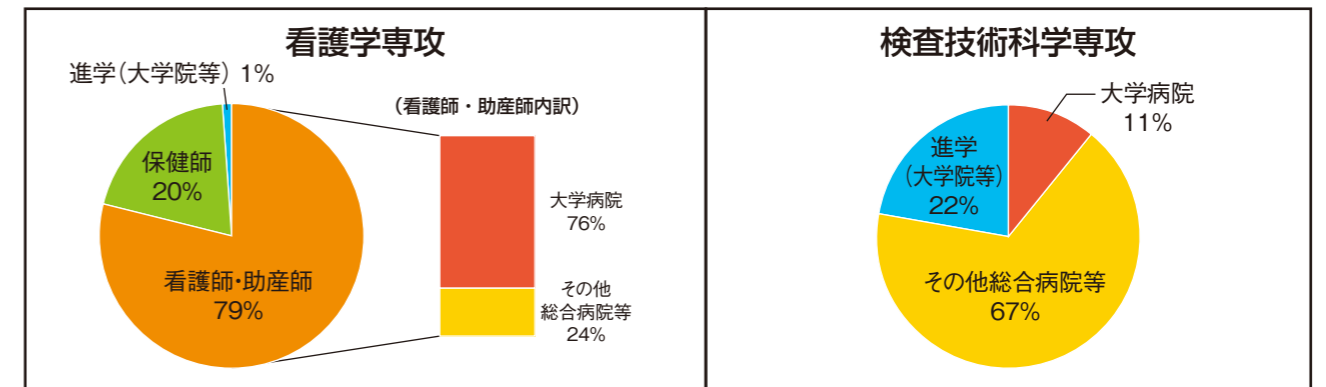


演習



学生食堂

■令和5年3月卒業生の進路



■学位・受験資格等

	看護学専攻	検査技術科学専攻	備考
入学定員	80名	40名	
卒業により得られる学位	学士(看護学)	学士(保健学)	
国家試験受験資格	看護師 保健師 助産師 ※1	臨床検査技師	※1 所定の単位(選択科目)を修得した場合に得られます。(人数制限あり、女子対象)
認定試験受験資格		細胞検査士 ※2 健康食品管理士 ※2	※2 所定の単位(選択科目)を修得した場合に得られます。
その他在学中に受験できる資格試験		医療情報技師 毒物劇物取扱責任者 バイオ技術者(上級・中級) ※3 第2種ME技術者	※3 「試験会場校」
申請により得られる免許	養護教諭二種免許 ※4 第一種衛生管理者 ※5		※4 所定の単位を修得し、保健師の国家試験に合格すれば、申請により得られます。 ※5 保健師の国家試験に合格すれば、申請により得られます。

■入試情報

山口大学医学部保健学科では、一般選抜(前期日程・後期日程)、学校推薦型選抜、帰国生徒入試、社会人入試、私費外国人留学生入試など様々な入試を実施していますが、これらの入試はすべてインターネットによる出願となります。各入試の内容や出願方法等については、山口大学ホームページ(入試関連情報)でご確認ください。

また、募集人員、個別学力検査の実施期日、その他必要な事項を記載した学生募集要項(PDF)についても、山口大学ホームページ(入試関連情報)に掲載される予定です。

入試に関するお問合わせ先

- 山口大学 入試課
〒753-8511 山口市吉田1677-1 TEL083-933-5153
山口大学ホームページ(入試関連情報) URL
<https://www.yamaguchi-u.ac.jp/nyushi/>
- 山口大学 医学部 保健学科入試担当係(学務課保健学科教務係)
〒755-8505 宇部市南小串1-1-1 TEL0836-22-2134
保健学科ホームページURL
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/med/health_sciences/index.html



- JR宇部線宇部新川駅下車、徒歩約10分
- 宇部中央バス停下車、徒歩約10分
- 山口宇部空港から車で約15分

受験生へのメッセージ

看護学領域



看護学領域長
山勢 博彰

保健学専攻の博士前期課程の看護学領域には、基礎・地域看護学と臨床看護学の2分野があり、教育研究に取り組んでいます。また、急性・重症患者看護とがん看護の専門看護師コースの履修もできます。大学院生が看護実践の中で捉えた問題意識や関心事を中心に、特論・演習や実習を通して高度な看護を学び思考を養います。そして、看護学の研究能力を身につけ、その成果としての修士論文をまとめます。

博士後期課程では、基礎看護学、地域保健看護学、高度侵襲医療看護学、母子発達・遺伝看護学、老年生活機能看護学の分野があります。大学院生のこれまでの研究活動を基礎として、博士論文となる研究を進めていきます。構想発表会や中間発表会などでは、多くの教員の前でプレゼンテーションを行い、専門的、多面的な助言を受けるこ

とができます。また、「生体情報検査学領域」の大学院生と一緒に学びますので、分野の異なる院生同士の交流も有意義です。

大学院での学習は、大学院生や教員、演習や研究フィールドの専門職者との出会いの機会が多く、人的ネットワークを拡げられることも大きな魅力だと思います。ぜひ、大学院医学系研究科で看護学を究める醍醐味を実感してください。



生体情報検査学領域



生体情報検査学領域長
野島 順三

近年、国立大学医学部保健学専攻では大学院博士前期(修士)および後期(博士)課程の開設が進み、これまでのMedical Technicianを養成する教育から、高度な専門知識と技術を兼ね備えたMedical Technologistの育成、さらには優れた研究・開発能力を持つMedical Scientistの養成に教育の重点が移行しています。

生体情報検査学領域の博士前期課程では、臨床検査診断学・病態検査学・細胞解析学・病原微生物学・遺伝情報学・生理機能学・画像診断学・高次神経・再生医療など幅広い研究・教育分野を設け、大学病院や企業の研究・開発部門で活躍できる「高度医療専門職」の育成に取り組んでいます。博士後期課程では、細胞情報応用学と病態情報解析学の2研究領域を開設しており、各分野のスペシャリストの教員がオムニバスで高度な専門的能力と優れた研究・開発能力を教授し、多様な臨床検査学研究を推進できる医科学

者(保健学博士)の養成を目標に掲げています。

さらに生体情報検査学領域では、全国に先駆けて、「再生医療・細胞療法を担う高度な医療専門職の育成コース：臨床培養士養成課程」を開設し、日本再生医療学会指定の教育機関として全国初の認定を受けました。この臨床培養士養成課程は、臨床検査技師の国家資格を取得した大学院生を対象に、教育機関である大学院医学系研究科と再生医療・細胞療法を実践する山口大学医学部附属病院、最先端の研究機関である神戸医療産業都市推進機構が連結して、日本再生医療学会の認定制度に沿った教育プログラムを実践し、次世代の医療技術として期待される再生医療・細胞療法を担う高度な医療専門職業人の育成を行っています。



教育の理念と目標

医学系研究科の教育理念と目標

1. 人間の健康増進と医学・生命科学の発展に世界的に貢献できる人材を育成する。
2. 医学・生命科学領域において時代にあった社会のニーズに対応できる専門的な知識と技術並びに豊かな人間性と高度な倫理観をそなえた人材を教育する。
3. 産学公連携に寄与することで社会に貢献できる人材を育成する。

保健学専攻の教育理念と目標

保健・医療の分野において、真理を探究し、人類の幸福と発展に資する高度な知識・技術を「発見し」、「はぐくみ」、「かたちにする」ことを教育理念とし、専門的知識を持った高度専門職業人及び保健・医療の学問領域における科学的発展に寄与できる教育・研究者を育成する。

教育の概要

看護学領域

人々の生活や健康問題が多様化・複雑化するに伴い、看護学が対象とする課題は非常に多くなり、より高度な知識と実践能力が求められています。本領域では、看護に対する関心や問題意識を深め、看護を発展させるための研究を進めます。また、看護の基盤となる看護理論の体系化や看護倫理など、さまざまな課題について探求し、基礎・地域看護学分野と臨床看護学分野の二つの専門領域の中で教育・研究をすすめています。



生体情報検査学領域

科学、とくに分子生物学の急速な進歩に伴って、分子・細胞レベルから組織・器官レベルにわたってさまざまな生体情報が得られるようになってきています。本分野では生体から得られる情報を多様な視点からの確に把握分析して疾患発生の可能性や経過や予後の判定に資することのできる理論や技術を研究するとともに、新たな技術や機器の開発を目指した研究指導を行います。



特別研究分野と主研究テーマ

看護学領域

基礎・地域看護学分野

- 看護理論に関する研究
- 看護基礎教育および看護継続教育に関する研究
- 看護実践能力に関する研究
- 地域看護・公衆衛生看護の方法論や理論化に関する研究
- がん予防行動のメカニズムと効果のある心理的介入
- 精神疾患及び身体疾患に付随する心理社会的問題のアセスメントと介入に関する研究
- 国際看護学および健康政策

臨床看護学分野

- クリティカルケア看護に関する研究
- 急性期看護に関する研究
- がん看護に関する研究
- 慢性期病態にある人の看護に関する研究
- 終末期にある人の看護に関する研究
- メンタルヘルスに関する研究
- 精神障害者のリハビリ支援に関する研究
- 周産期を含めた女性の健康保持増進に関する研究
- 周産期から小児期にかけての看護実践に関する研究
- 乳幼児を抱えた女性の子育て支援
- 健康に問題を持つ小児とその家族の支援に関する研究
- 先天異常を持つ子どもの育児支援に関する研究
- 遺伝看護学に関する研究
- 高齢者のリハビリテーションに関する研究
- 高齢者の特性とケアに関する研究
- 在宅ケアに関する研究

生体情報検査学領域

- 抗リン脂質抗体症候群の鑑別診断法の確立と病態発症機序の解明
- 酸化ストレスに起因する病態発症機序の解明
- 膠芽腫における癌幹細胞の検出
- EBウイルス関連胃癌の発生機序の解明
- 造血管悪性腫瘍の新規遺伝子解析法の開発
- 細胞老化による骨髄腫瘍発症メカニズムの解明
- がん臨床試験における代替エンドポイントに対する統計的基準
- 遅発性の効果がみられるがん免疫療法における解析方法の研究
- がん臨床試験における後治療の評価方法に関する研究
- 腫瘍微小環境に関わる炎症細胞、特にマスト細胞の作用メカニズムの解明
- AA amyloidosis に関する臨床病理学的検討
- 心筋細胞の Ca ハンドリングの研究
- アルツハイマー病の新規治療法開発
- 心筋細胞肥大発生のメカニズム
- 不整脈に対する電気生理学的検討とカテーテルアブレーションに関する研究
- 心臓超音波診断法による心機能評価に関する研究
- AI 技術を用いた超音波検査画像における新たな指標の創出
- 血管内皮機能評価法の臨床応用に関する研究
- 周産期うつ病発症のリスク因子の解明およびスクリーニング法の開発
- 環境中の薬剤耐性遺伝子の動態と遺伝子伝播の解明
- 遠紫外線による殺菌効果の検討
- 猫ひっかき病(バルトネラ菌による感染症)の高感度血清学的診断法の開発
- 猫ひっかき病感染予防のための猫ワクチンの開発
- 中心体関連蛋白質 PCM1 と疾患との関わりに関する研究
- 神経変性疾患保護因子および細胞保護因子に関する研究
- エクソソームを中心とした臓器間コミュニケーションダイナミクスの理解
- 骨格筋の老化と疾患のメカニズムの解明

在学生からのメッセージ

看護学領域

私は、大学卒業後、行政保健師として就職しました。在学中に進学したい気持ちもありましたが、実務経験を積んでからと思い社会人特別選抜で入学しました。仕事では、地域住民が住み慣れた地域でその人らしく安心して生活を継続するための業務を行っており、実情や時代に応じた新たな健康課題を捉え、解決策を見出し実践していくためには、論理的に探究する能力が必要だと改めて感じました。研究指導をお願いするため恩師を訪ねた際は、研究テーマ等丁寧に相談に乗っていただき受験の助言もいただきました。合格後も、先生方には講義や演習等の時間調整や配慮をいただき、社会人学生として両立できていることに感謝しています。

講義では、自分達で課題に取り組みプレゼンテーションを行うことが多く、事前の自己学習が必要です。自分の考えが求められるので、それはなぜかという思考過程を積み重ね、考えを整理し表現することは日頃の業務にも生かされています。また、臨床で活躍されている講師の先生の講義や専門の異なる他学生との討論を通じて、知識を深化させることができ向学心が高まりました。親身になって支援して下さる先生方や仲間とともに自身のスキルアップや研究ができる環境は本学の大きな魅力だと感じています。



博士後期課程 2年
片岡 雅美

在学生からのメッセージ

生体情報検査学領域

私は、先生から「これからの臨床検査技師には大学院卒が必須になってくるかもしれない。」という言葉聞き、大学院での教育を受けることでこれからの可能性が広がると考え、就職から大学院進学へ進路を決定しました。

大学院では学部生の時の決められた方法で実験の再現を行う「実習」とは異なり、ある課題を解決するために自分で方法を考え実験を行う「研究」を行うため、学部生のうちに身につけにくい自主性を育むことができると考えています。また、研究に関して、指導教員やそれ以外の先生方、同じ研究室の方々と相談したり意見を聞いたり、お互いの研究に対しての見解を共有しあったりするため、研究に行き詰った時に相談しやすかったり、お互いの研究をよりよいものにできる環境で研究ができるため、山口大学の大学院は研究に集中できる環境だと思います。

少しでも研究に興味のある方、可能性を広げたい方はぜひ進学の方も検討してみてください。



博士前期課程 2年
米田 翔磨

入試情報

受験方法

受験方法には、博士前期・後期課程ともに一般選抜、社会人特別選抜および外国人留学生特別選抜(生体情報検査学領域のみ)があります。社会人とは、医療・保健・福祉施設、教育研究機関、官公庁、企業等に勤務している研究者、教育者または技術者等をいいます。

入学者選抜方法

博士前期課程：一般選抜は、『小論文(英文で出題)』、『面接(研究計画書および専門科目に関する口頭試問を含む)』、および提出書類を総合して判定します。社会人特別選抜は、『小論文(英文で出題)』、『面接(研究計画書に関する口頭試問を含む)』、および提出書類を総合して判定します。外国人留学生特別選抜は、『小論文』、『面接(語学試験を含む)』および提出書類を総合して判定します。

博士後期課程：一般選抜は、『英語』、『専門分野に関わる小論文』、『面接(修士論文または研究業績調書、研究(希望)計画書及び専門分野に関する口頭試問を含む)』および提出書類を総合して判定します。社会人特別選抜は、『英語』、『実務経験に基づいた小論文』、『面接(修士論文または研究業績調書、研究(希望)計画書に関する口頭試問を含む)』および提出書類を総合して判定します。外国人留学生特別選抜は、『英語』、『小論文』、『面接(語学試験を含む)』および提出書類を総合して判定します。

学生募集要項の請求方法

封筒の表に、「医学系研究科保健学専攻博士前期課程(あるいは博士後期課程)学生募集要項請求」と明記し、返信用封筒を同封の上、下記の請求先に郵送してください。なお、返信用封筒には角形2号(33cm×24cm)を使用し、配達先の郵便番号、住所、氏名を明記の上、**切手 390 円分**を貼ってください。

請求・お問い合わせ先

山口大学医学部学務課大学院教務係
〒755-8505 宇部市南小串 1-1-1

TEL : 0836-22-2058

山口大学大学院医学系研究科ホームページ

https://www.yamaguchi-u.ac.jp/med/graduate_school/



募集要項請求の際にお知らせいただいた個人情報募集要項送付以外の目的に使用することはありません。